生産は圧延品は減少、二次合金は増加

輸入は二次合金と合金スクラップが増加

橋本アルミ 橋本健一郎氏リポート②

五月前半は、米の対露制裁の一段の緩和、RUSALの経営陣刷新報でアルミ続落。露RUSALは出荷再開を目指して経営陣を入れ替えると発表するなどのマイナス材料もあったが、アルミ新地金はいまだにロシアからの供給不安があること、中国のアルミ再生塊メーカーはその原料の大部分を米のシュレッダー非鉄スクラップZorbaに依存し、この供給が一カ月間止まることは彼らにとって大打撃。たちまち生産減、輸出減に陥り、相場も急騰することが予想されることなどを好感。LMEアルミ相場は五月十五日時点で二、二八五・五ドル（セツル）と月初価格から二七・五ドルUPの前半締めとなった。

後半は、イタリア、スペインの政局不安による国債利回りの急上昇し、信用リスクの高まりに対する警戒感などのマイナス材料もあったが、米雇用統計が市場予想を上回ったことが好感される。五月の雇用者数は二二万三、〇〇〇人増で予想の一九万人増を上回った。失業率は三・八%で一八年ぶりの低水準だったことを好感しUP。六月五日現在、LME相場（現物後場）二、三二四ドルと後半スタート価格から一一ドルUPしてのスタートとなった。

◆月間のドル／円レート（TTS）

一〇九・八五↓一〇八・五七（円）

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比〇・二%増の九三万二、〇〇三台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数（軽除く）は前年比〇・六%減の二三万六、〇二三台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比〇・三%増の八万四、二二六戸であった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比一五・九%減の五三t、二次合金が五五・八%減の一、三四一t、スクラップが三・九%減の七、七五五t、アルミ缶が二〇・七%増の六、六九二t。

輸入

輸入は新地金が前年比〇・八%減の一二万三、三二〇t、二次合金が四・一%増の二〇万四、九〇一t、スクラップが三・〇%減の五九四t、合金スクラップは四・六%増の三、八四二t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比二・九%減の一七万一、九二三tと四カ月連続マイナス。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比三・九%増の六万八、七七八tであった。

■概況

【自動車生産】

三月の四輪車生産台数は九三万二、〇〇三台で前年同月比〇・二%増となり、三カ月ぶりに微増。

輸出は四四万一、六七五台で前年同月比五・三%増。

【自動車販売】

五月の国内自動車販売台数（軽は除く）は二三万六、〇二三台で前年比〇・六%減と、微減ながらも再び減少した。このうち、乗用車二・四%減、貨物一一・七%増、バス六・八%減。

【住宅着工数】

平成三十年四月の住宅着工戸数は八万四、二二六戸で、前年同月比で〇・三%増となった。また、季節調整済年率換算値では九九・二万戸（前月比一〇・九%増）となった。

住宅着工の動向については、前年同月比で一〇カ月ぶりの増加となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家は減、分譲住宅は増となった。

引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【アルミ圧延・押出品生産数量】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比二・九%減の一七万一、九二三tと四カ月連続マイナス。

（板類）生産・出荷ともに四カ月連続マイナス。

（押出類）生産、出荷ともに四カ月ぶりプラス。

（六面へ続く）

（昭和33年5月10日第三種郵便物認可）

アルミスクラップ需給は荷余り状態か

（四面より続く）

【アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績】
生産は前年比三・九％増の六万八、七七八ｔと七カ月連続プラス。出荷は四・八％増の六万九、四三五ｔと七カ月連続プラス。

このうち、出荷先別では、鋳物五・七％増、ダイカスト五・三％増、板〇・八％減、押出六・三％減、鉄鋼一五・四％増、合金地金メーカー三・九％減。

【輸出】アルミ新地金が前年比一五・九％減の五三ｔ、二次合金が五五・八％減の一、三四一ｔ、スクラップが三・九％減の七、七五五ｔ、アルミ缶が二〇・七％増の六、六九二ｔ。

【輸入】アルミ新地金が前年比〇・八％減の一二万三、三二〇ｔ、二次合金が四・一％増の一〇万四、九〇一ｔ、スクラップが三％減の五九四ｔ、合金スクラップが四・六％増の三、八四二ｔ。

【見通し】

・自動車は生産が〇・二％増、国内販売台数が前年比〇・六％減と、小幅ながら生産が三カ月ぶりプラス、販売が再びマイナス。販売が増加に転ずるかどうか今後に注目。

・アルミ圧延・押出品生産数量
板類・押出生産合計は前年比二・九％減と、四カ月連続マイナス。今後マイナスが続くかの動向に注目

・アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績
生産は前年比三・九％増の六万八、七七八ｔと、七カ月連続プラス。出荷は四・八％増の六万九、四三五ｔと、七カ月連続プラス。今後もプラスが続くか注目。

・アルミ輸出は、アメリカの輸入規制に伴う地金高を受けて減少、アルミ缶は内需の荷余り感から増加。

・アルミ輸入は地金、スクラップは採算面が合わず減少、ただし二次合金など自動車関連は増加。

【スクラップ需給予想】
流通在庫は米国のアルミ鉄鋼製品の関税問題による地金タイト化から地金価格が上昇しており、スクラップもそれに伴い問屋サイドも段階的に売却しており、タイトではないか？

需要面に関しては前月に続き自動車の生産、販売が低迷していること、輸入地金の下落を受けて荷余り状態になるのではないか？

【価格・為替予想】
今月は六月十二日開催予定の米朝会談及び米国のアルミ・鉄鋼製品の関税問題に左右される。

米朝会談に関しては、二転三転したうえでの開催であり、北朝鮮がトランプへの脅しで失敗した後での開催であることから脅しが通用しないことは承知の上、大きな前進があるのではないか？

米国のアルミ鉄鋼製品の関税問題に関しては、六月一日から鉄鋼・アルミに対する米国関税措置が実施された。現時点で影響が出ていないようでも、長期的には貿易摩擦などで、影響は避けられないのではないか？

それらを踏まえた六月のアルミ価格は米朝会談が問題なく行われ、関税の影響がでなかった場合、先月高値の二、四〇〇ドルを予測。いずれかの場合は二、三〇〇ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった場合、先月安値の二、二〇〇ドル。

為替は、前記材料からドル円は一〇八円～一一〇円（ＴＴＭ）台を予測。

スクラップ購買価格に関しては〇～一〇円安程度と予測している。

ＬＭＥ非鉄在庫（6月5日発表分）

	入庫	出庫	6月4日現在	増減
銅	0	6,050	309,300	−6,050
GAW	0	0	0	±0
GAC	0	6,050	309,300	−6,050
すず	55	0	2,575	+55
鉛	0	225	133,975	−225
亜鉛SHG	0	275	244,675	−275
アルミ	0	7,050	1,192,100	−7,050
〃二次合金	0	0	12,020	±0
ニッケル	0	5,538	281,214	−5,538
アルミ二次(NASAA)	0	220	167,380	−220

（単位：トン）